

J-TEC 倫理委員会議事録（第1回）

日 時： 1999年（平成11年）11月6日（土）13:00～15:30

場 所： 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング（以下、J-TEC）会議室

出席者：

委員長	飯島 宗一	科学技術交流財団 理事長
副委員長	小澤 秀雄	J-TEC 代表取締役
委員	青山 久	愛知医科大学 形成外科 教授
	石川 直久	愛知医科大学 薬理学科 教授
	土田 友章	南山大学 社会倫理研究所 助教授
	坂井 克彦	中日スポーツ 総局長
	岩本 美砂子	三重大学 人文学部 教授
	杉島 由美子	椙山女学園大学 生活科学部 助教授
	大須賀 俊裕	J-TEC 管理統括 取締役
	半田 悌彦	J-TEC 法務企画部 部長

欠席者：

委員	今村 雅志	富山化学工業株式会社 QAC 副センター長
----	-------	-----------------------

J-TEC 出席者：

	高村 健太郎	取締役研究開発部 部長
	森 由紀夫	研究開発部 生産技術マネージャー
	黒田 享	法務企画部 薬事開発マネージャー

議事内容：

1. J-TEC 代表取締役 小澤あいさつ
2. 飯島委員長あいさつ
3. 委員紹介
4. ミニ・レクチャー「倫理について」（南山大学 土田助教授）
 - ・ 生命倫理に関する日本の状況、企業としての倫理に関する取り組み方
 - ・ Tissue に関する生命倫理については、アメリカで議論が重ねられ、イギリスではナフィールドという機関が倫理綱領を出している。日本においても厚生省の審議会が組織され、5回の審議の上、報告書が出されており、整備が進んできているものとする。厚生省の報告は研究開発を目的としたものであり、企業化という点では配慮が必要である。
 - ・ 臓器、組織の売買は全世界的に好ましくないとされており、無償の提供が前提となっている。
 - ・ 企業倫理を持たない企業は Global Standard から外れてしまう。

- ・ 倫理委員会を持ち、倫理的な配慮をし、Accountability を持って事業を進めていくことが大切である。

講演後、飯島委員長より、「倫理委員会の役割は倫理的に正しい仕事を進めるためのもので、このような事業をやる上では当たり前のことである。この委員会は日本の蒲郡においてちゃんとした企業倫理を考える場としたいと考える。皆さんもそのつもりでご協力いただきたい。」との提言がなされた。

5. J-TEC の事業概要、研究開発について

(1) 事業概要

(2) 研究開発状況

- ・ 組織を提供する大学の医学部倫理委員会の承認（平成 11 年 1 月 27 日付）に基づき、同大学医学部口腔外科で抜歯手術を受けた患者の余剰となった口腔粘膜組織を研究目的で受入れ、研究を進めている。

(3) 説明内容に関する質疑応答、討議

- ・ 組織情報として提供される感染症検査の検査費用について質問があった。患者治療のための検査費用を J-TEC が負担していないこと、また、J-TEC の求める検査がなされていない組織は研究用組織として受け入れないことを説明した。
- ・ インフォームド・コンセントの説明書に「患者の治療に万全の対処をする、治療に対する処置以上に組織を採取することが無い」と明記されていなかったが、実際には、担当医師からその旨の説明が患者に対しなされている。委員の意見として配慮し、組織採取施設の先生方にお話し、配慮していただくこととした。
- ・ 議論の中には、未知の感染症についての話もしたが、J-TEC の事業として、まずは自家培養製品を考えていることから、現時点での問題は無いと考えられた。

6. J-TEC 施設説明、見学

7. 倫理委員会の運営等について

- ・ 倫理委員会規定について説明。（規定については J-TEC ホームページにて公開）

以上